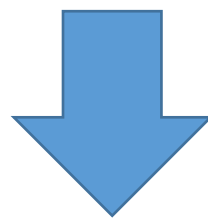


項目	回答数	意見
① 重点目標は現行のままでよい	9	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間に及ぶコロナ禍の影響で、大人とこどもの関係が変化している中で、大人のこどもへのかかわり方や声かけや言葉かけについて、新たな配慮や工夫が求められていると思う。この重点目標を再認識し、これからの具体的な方向性と取り組み内容を検討できれば。 ・重点目標が浸透するまでには、もう少し時間が必要だと思う。 ・よく考えられて策定された目標であり、これまでもこの目標のもと取り組まれてきたため、変更は不要と考える。 ・こどもたちの側から大人との良い関係を自発的に作ることができれば良いが、アプローチを広げるための具体的な方策は難しい。「大人が気づいて」ほっておかない、声をかけていく、関係を作っていくという、大人の行動が必要である。現在の重点目標は、こどもたちに「過干渉」や「お節介」と思われないようにしつつ、程よい見守りのあたたかさを伝える「大人の気づき」を含んでいる。いい表現・目標である。 ・大人側の意識改革で、こどもの目線を持つことの大切さが必要なので、「声をかけあう関係づくり」は重要だと思う。 ・青少年問題協議会の目的・趣旨に合っていると思う。 ・今年からアフターコロナの時代に入り、取り組みも戻りつつある中、重点目標をどのくらい意識して行事を行えるか知りたい。また今後重点目標に沿った行事の定着化を期待したい。
② 重点目標は変えた方がよい	2	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の重点目標も意味合い的には問題はないと思うが、活動の目的を改めて確認するためにも、考える機会があってもよいのではないかと思う。 ・こどもを取り巻く状況が変わりつつある中、根柢の思いは同じだが、文言を変えても良いのではと思う。
③ 重点目標のことより、青少年問題協議会の取組内容の工夫について議論したほうがよい	1	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成運動協議会など地域教育は地域によって活動の差が大きく、学校のかかわりで影響される。学校教育と地域教育の関係性を明確にし、地域教育がより充実するよう、市全体でコンセンサスを図れるような話もしてみたい。

※複数の選択肢に回答されたケースと、未回答のケースがある。



【アンケート結果】

・多くの専門部会委員が、大人が気づいてこどもに声をかける関係づくりの重要性と、現行の重点目標の継続に言及された。

【重点目標に関する方向性】

・引き続き、現行の重点目標「子どものSOSほっとくん!?大人が気づいて声をかけあう関係づくり」を継続していく。

・重点目標の浸透や、意識して取り組みを行えたかどうかを評価するため、自己点検アンケートの結果に注目し、定着が図れているか検証する。